

研究・調査報告書

報告書番号	担当
288	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Self-injury in Japanese junior and senior high-school students: prevalence and association with substance use 日本の中学校・高校生徒の自傷行為：発症率と薬物使用との関連	
執筆者	
Matsumoto M, Imamura F	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychiatry and Clinical Neurosciences	
キーワード	
思春期、高等学校、発症率、自傷行為、薬物使用	
要 旨	
<p>目的と方法： 自傷行為の発症率と薬物使用との関連を、2974名の中学生および高校生徒の自記式の質問紙への回答より検討した。</p> <p>結果： 生徒の9.9% (男子の7.5%、女子の12.1%) が1回以上の自傷行為の経験があると回答した。自傷行為の経験のある生徒とない生徒では、アルコール使用、喫煙、違法薬物使用を含む、薬物使用に関連した問題について有意差がみられた ($p < 0.001$)。自傷行為を行う生徒は、現在違法薬物を使用した経験がない者も、将来使用する恐れがあることも示唆する。</p> <p>結論： 思春期の自傷行為は薬物使用との関連があり、将来の違法薬物使用を予測する危険因子であるかもしれない。</p>	